

## 仏様のおはなし新シリーズ第70集 「阿弥陀の救い」

本願寺出版社から出されています『拝読浄土真宗のみ教え』の親鸞聖人のことばの中に「限りなき光と寿(いのち)の仏」というところがあります。中身は次のとおりです。「阿弥陀如来がさとりを開く前、法蔵菩薩であったとき、すべてのものを救うため、限りない光と寿をそなえた仏になろうと誓われた。そして果てしない修行の末に、その願いを成就して如来となられた。阿弥陀とは無量をあらわす。阿弥陀如来は、その限りない光をもって、あらゆる世界を照らし、私たちを摂(おさ)め取ってください。その限りない寿をもって、あらゆる時代を貫き、私たちを救いってください。親鸞聖人は仰せになる。

十方微塵世界(じつぼうみじんせかい)の 念仏の衆生(しゅじょう)をみそなわし

摂取してすてざれば

阿弥陀となづけたてまつる

たとえ私たちがその救いに背を向けようと、撮め取って捨てないと、どこまでもはたらし続ける仏がおられる。その仏を阿弥陀如来と申し上げるのである。」

「撮取してすてざれば 阿弥陀となづけたてまつる」という親鸞聖人おことばは、阿弥陀さまという仏さまだから私たちを撮めとって捨てないのではなく、私たちを撮めとって捨てないはたらきを阿弥陀というのです。

阿弥陀さまは、「必ず救う 我にまかせよ あなたのそのままがいいですよ」と呼び続けてくださっています。厳しい修行や仏教の勉強、仏さまのはなしを聞かない者は救いませぬではなく、それが出来ないものをも救う。むしろ出来ないわたしが目当てでありましたとお聞かせいただいています。親鸞聖人は撮取とは「物の逃ぐるを追わえ取る」とお示しです。逃げるものとは当にわたしのありようでありました。わたしは、朝から晩までこれが好き嫌い。勝った、負けた。得した、損した。他人のことより自分のことと生きています。わたしのころの、この部分だけは人に知られたくない、見せられないということもすべてお見通しの上で、離さない、離せないと呼び続けてくださっているのが阿弥陀さまです。

南無阿弥陀仏のお念仏はよろしくお願ひします、助けてくださいという神頼みのことばではなく。阿弥陀さまの方から「必ず救う 我にまかせよ」と名乗りとなり呼び声となってわたしたちにいたりどいてくださっています。まさに今が、お救いの中の真つ只中でした。阿弥陀さまのご苦勞を唯々お聴聞させていただくばかりであります。

